

飯伊地区 産業経済動向

No.538 2024/1
(6.2.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙	写真：リニア天竜川橋梁橋脚工事 堤防内4本と喬木村高架橋が整列 ……	P 1
製造業	景況DIは前月から悪化。一方、先行きについては景況感好転を見込む声が多い …	P 2
建設業	1月の公共工事は前年比減少。2023年12月の住宅着工は前年比2%増加 ……	P 4
商業・サービス業	景況DIは前月と変わらず。飲食業は好調も宿泊業は景況感の見方分かれる ……	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です	リニア南アルプストンネル静岡工区を巡る状況 ～「静岡県問題」の理解のために～ ……	P 6
環境特集	地域企業の挑戦 南信州広域タクシー有限会社 「すべては、地域の公共交通機関としてあり続けるために」 ……	P 8
統計調査から	DX時代の広域連携 スマートリージョンをめざして ……	P 12
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標 ……		P 13
新入社員研修会(令和6年4月17日(水))のお知らせ ……		P 14

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならず、全国で行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から悪化。一方、先行きについては景況感好転を見込む声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）はマイナス11.4で、前月から16.2ポイント低下。翌月予測はプラス22.0で、前月から58.6ポイント上昇。年末の繁忙期を終え、食品製造で景況感が悪化した事業者が複数あり、当月景況感がマイナスとなった。一方、先行きの景況感については食品製造で好転を見込む声が多く、またこれまで悪化を見込む声が多かった機械製造でも好転と悪化の声が拮抗してきており、製造業全体での翌月予測の景況感はプラスへ転じた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- 受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、受注は横ばいとの声が多い。先行きについては、増加を見込む声と減少を見込む声が拮抗している。
- 景況感…… 当月の景況感は横ばいとの声が多い。先行きは業者により見方が分かれ、好転・悪化が拮抗している。

[企業からのコメント]

- ・受注自体が減っている。新規案件の引合いはあるが、受注率は以前より下がっている。
- ・「1月の顧客訪問では半導体関連装置が年末に増産基調になるという動きの可能性は薄い。2025年以降となりそう」「中小の製造メーカーは地元だけでなく全国的にも景気は低迷している。自動車業界以外は動きが鈍いが、半導体関連で少し動きが出てきたという話を聞く」「半導体産業はまだ低調、回復は今年の秋以降か？場合によっては来年との声も」

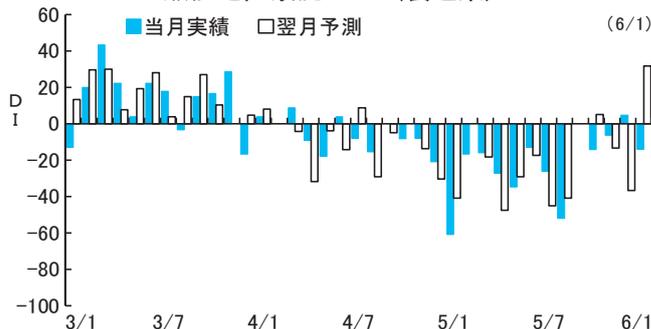
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- 受注、販売… 販売は前月比で横ばい～やや増加。受注は業者により増減分かれる。
- 景況感…… 当月の景況感は大きな変化はないとの声が多い。先行きについても横ばいを見込むとの声が多い。

[企業からのコメント]

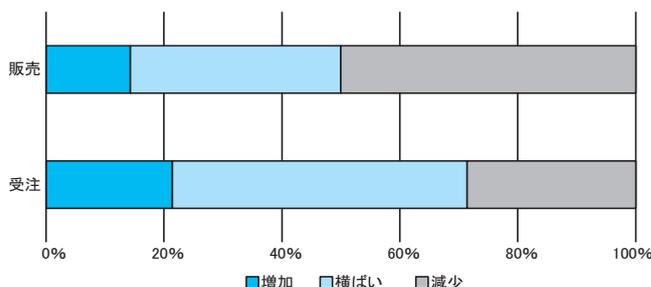
- ・「1月の売上は比較的好調だったが、例年に比べると悪い状況には変わらない」「本格回復まではもう少し時間がかかる予測だが、売上は2023年11月をボトムに回復基調となってきている」「2月以降の受注残高が想定よりかなり低い。2月内での増加を期待。また、新規案件の話もあるが、単発で量産にはつながらない案件が多い」「受注関連は、昨年秋から変わらずやや落ち込んだ状態で推移している。半導体製造装置業界においては、次世代向けの開発案件等が動き出しており、年明け以降若干風向きが変わり始めた実感している」
- ・「2024年は半導体の本格回復が期待されている。ロジック・ファウンドリに続いて、年度後半からはメモリ投資への回復が見込まれるために徐々に回復基調となる見通し。ただ、向こう3～6か月程度は低調が継続する予測となっている」「装置メーカーからの情報として、本格的に動き出すのは夏以降との予測」「エンドユーザーの装置世界シェアが高い分野では材料調達交渉が始まったりしていることから、回復の動きが進んでいると考えられる」
- ・「大手企業から、年度初めの事前価格交渉（転嫁分含め）が増えてきている」「足元での製品単価は変わらないが、主取引先より価格ダウンの依頼があった」

飯伊地区景況DI（製造業）

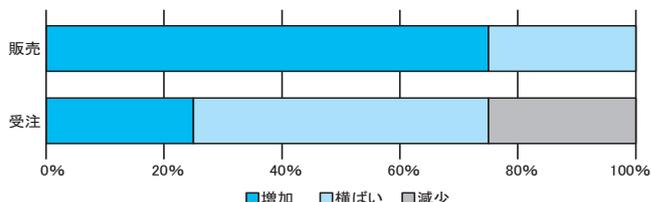


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
 景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
 「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

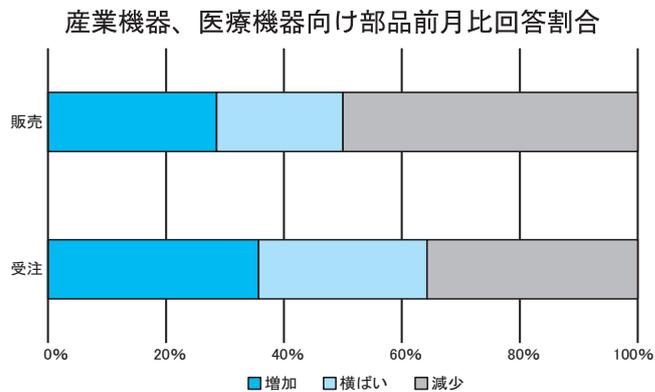


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- 受注、販売… 販売、受注ともに、業者により増減分かれるが、販売では減少との声が多い。先行きについては、販売、受注ともに増加を見込むとの声が多い。
- 景況感…… 当月の景況感は悪化との声はやや多い。一方、次月以降は好転を見込むとの声はやや多い。



[企業からのコメント]

- ・「車輛関係部品は、半導体部品の不足が解消されつつあり、増加傾向にある。産業機器部品は、中国経済の減速とEUの金利の高止まりによる設備投資の抑制により減速している」「半導体関連が少し受注が伸び、航空機関連も上がってきている」「食品（菓子向け）製造機は好調。半導体向け部品は減少」「悪い意味で景況感は変わらず。大口案件が少なく、受注も売上も伸びない」「物流面において、それぞれのメーカーによる在庫調整が景気を一段と悪化させている」「取引先一般的に出図が遅れていて、先の予定が見えてこない」
- ・今月からアルミが値上がり。鋼材も値上がり予定。一時よりも厳しくはないが、製品単価への反映は難しい。
- ・早く景気が回復しないと、ゼロゼロ融資の返済とのダブルパンチで厳しさが増すとの声も出ている。

●漬物、半生菓子、菓子原料等

- 売上… 漬物は、前月比はやや減少～横ばい。菓子は前月比は業者により増減分かれる。景況感についてはやや悪化～横ばいとの声が多い。

[企業からのコメント]

- ・「販売先によって売上増減に差が出ている。原材料高騰のため、値引き等の拡販は難しい。減量による値上げの影響も今後どう響くか不安」「年末の反動でやや落ち着いている」「2月中旬からの繁忙期はどうか、しっかり見ていきたい」
- ・昨年に比べ全国的にインバウンドの増加が取り上げられているが、地域的にも商品的にも恩恵がないと感じる。
- ・元旦の震災や、実質賃金が減っている現状では、消費マインドはマイナスになりやすい。

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- 売上… 前月比、次月以降とも業者により増減分かれる。景況感についても業者により見方が分かれた。

[企業からのコメント]

- ・縁起物業界にとり、大きな販売シーズンが一区切りついた。今後は、年末シーズンに向けて営業活動・生産活動が始まる。復活した海外観光客、国内観光客増に対する商材販売に期待している。
- ・全般的には例年通りの売上だったが、能登半島地震の影響で売上は減少。一部、特定商品の増加があり納品が滞ったが、昨年より倍増して利益確保できた。

●上記以外の製造業

- 食品製造 …………… 販売は、前月比では業者により増減分かれ、景況感はやや悪化との声が多い。
- 自動車向け部品 …… 販売は前月比ではやや減少。景況感は概ね横ばいという。
- 印刷 …………… 販売は前月比では減少、前年比ではやや減少。

[企業からのコメント]

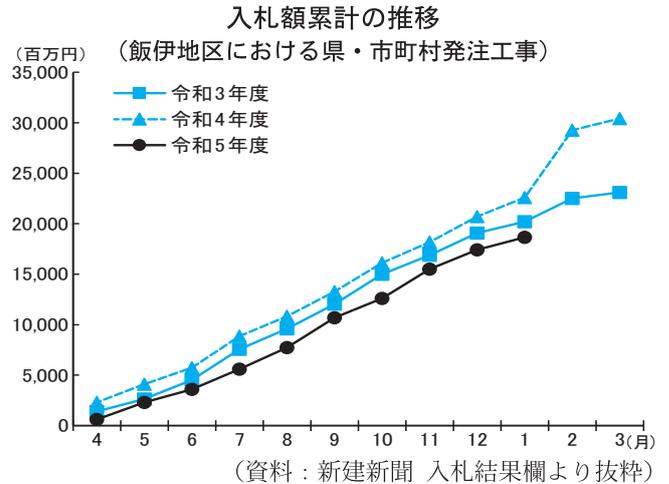
- ・「能登半島地震の影響で、正月ムードが自粛ムードとなり、嗜好品の受注が減少した」「受注は堅調になりつつあるが、原材料、光熱費の高騰を販売価格に全額転嫁できていない」「12月に比べれば、1月は売上が下がる」「食料品業界では、値上げにより消費者の節約志向が増し販売点数が減少、結果製造点数も減少し続けている」
- ・「デジタル化への波がさらに強くなってきている感がある。アナログの良さを、業界としてもっとアピールしていかないとジリ貧になってしまう」「この先、メーカー資材価格の値上げが続く。なんとしても値上げ交渉を根気良く継続していかなければならない」「資材の値上がりが継続している。製品への価格転嫁が難しい状況」
- ・製造業の中でも特にFA部門の落ち込みが大きく、未だに半導体や電子部品の入手問題などがあるが、今回は中国との貿易摩擦に加え台湾有事への懸念などもあり、中国・台湾への輸出が大きく減少している。その影響で、当地域にも関わりのある企業が大きく生産をダウンさせており、対応策がなく大きな問題となっている。
- ・「効率アップに向け新たな機械を導入予定」「販売点数・製造点数が回復しない為、積極的な設備投資が実行できない」

建設業

官公需

概況 1月の公共工事入札金額は前年比で35.6%減少、一昨年比では7.2%の増加

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約12.1億円（2月15日調査時点）。前年に比べ35.6%減少、2年前との比較では7.2%増加。
- ☑受注残高…………… 当月、先行きともに業者により増減分かれる。景況感は、一部にやや好転との声もあるが、大きな変化はないとの声が多数を占める。先行きについても大きな変化はないとの声が多い。
- ☑原材料価格…………… 当月、先行きともに概ね横ばいとの声と、上昇との声が拮抗している。



[企業からのコメント]

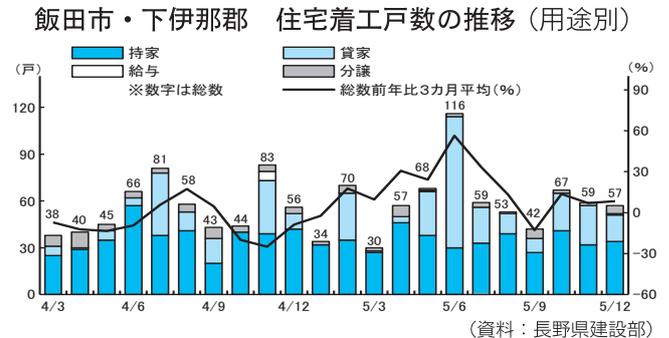
- ・「土木は、昨年6月の災害工事や補正予算の工事で忙しい。飯伊地区は他地区に比べ仕事はある」「来年度に向けて少しずつ動き始めている気がする。工事の建設の話が他県からも入ってきている。地元は相変わらず、発注金額が低い」「通常公共工事の発注と、国土強靱化対策の補修工事の発注に合わせ、受注も始まった」
- ・「クレーン車や誘導員等の人手が不足。技術者がいればもっと工事が受注できるのだが、不足している」「業務量はあるが、技術者が不足」「技術者や営業職等、通年で募集している」「人員は相変わらず不足している」
- ・近日中に骨材の値上げがある。

民需

概況 令和5年12月の住宅着工戸数は57戸で前年比2%増加。

持家は減少も、貸家が増加し、2か月ぶりに前年比プラス

- ☑住宅着工戸数… 当地区の12月の住宅着工戸数は57戸。前月比3%減、前年比では2%増。持家の戸数は34件で前年(42件)から減少も、貸家が17件で前年(10件)から増加。分譲は5件で、前年(4件)から増加した。
- ☑原材料価格…………… 前月比では概ね横ばいとの回答が多いが、先行きは上昇を見込むとの声が多い。



[企業からのコメント]

- ・「建築は大型の箱物工事が少なく、住宅着工件数も少なく、例年より忙しくなさそうだ」「手持ち案件が多くて忙しい会社はあるが、偏りがある。飯伊全体の仕事はそんなに多いとは思えない。当社の仕事は全体的に受注が少ない」
- ・精密などの製造業でも明るい兆しがあるようだ。それでも、今までの中で一番苦しいという会社もある。建築はそこまで苦しいわけではないが、良くもない。

建設資材等

概況 1月の生コン・骨材の前月比売上は減少～やや減少。

前年比は生コンは減少～横ばい、骨材はやや増加

- ☑生コン … 売上は前月比は減少～やや減少。前年比は減少～横ばい。
- ☑骨 材 … 売上は前月比は減少～やや減少。前年比はやや増加。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、治山工事、築堤護岸工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約4割弱。
- ・12月から再開したリニア天竜川橋梁の生コン打設によって単発的な生コンの集中出荷がある関係で、生コン向けの骨材出荷が好調。逆に一般の工事への骨材需要は少なく、特に道路工事に使う路盤材用の砕石やアスファルト合材工場用砕石は例年の中でも最低の需要だったのではないかと。
- ・1月は生コンの出荷もなく、暇な日が多かった。大きな工事もない。

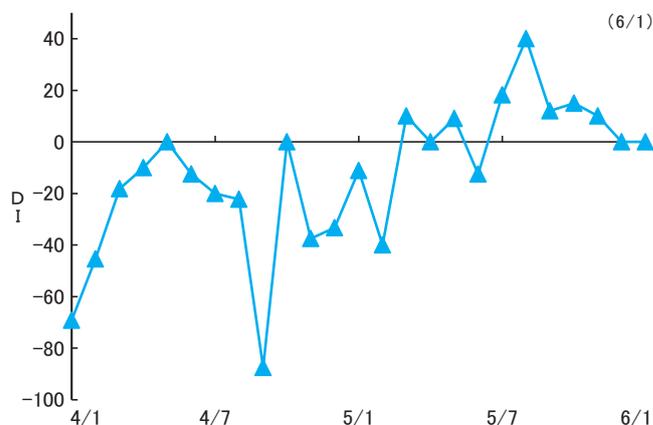
概況 景況DIは前月と変わらず。飲食業は好調も、宿泊業では景況感の見方が分かれる

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）は0.0で、前月から変わらず。

小売業や卸売業では景況感は横ばいとの声が多かったが、飲食業では売上は昨年比で増加との声が多く、景況感も好転との声が複数聞かれた。一方、宿泊業では業者により売上の増減が分かれ、景況感についても好転したとの声と悪化したとの声が拮抗していた。

人手不足との声は引き続き飲食業、宿泊業を中心に幅広い業種から聞かれ、不足感が解消したとの声は聞かれなかった。また物価高の影響を指摘する声も多く、先行きが見通せないとの声も聞かれた。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比では減少～やや減少、前年比では増加との声が多い

☑売上 … 前月比は減少～やや減少。景況感はやや悪化～横ばい。

[企業からのコメント]

- ・売上高は10月から毎月昨年比で増加。メーカー値上げの影響もあるが、客数・客単価の上昇で増加傾向にある。
- ・物価上昇対策の商品券配布があり、売上は昨年比で増加。ただ、現金払いの購入単価は減少傾向。
- ・電気代等の値上げなど、コスト増が厳しい。

●卸売業 概況 売上は前月比で減少～横ばい。景況感は横ばいとの声が多い

☑売上 … 食品、食肉の売上は前月比横ばい。青果、菓子、電設資材は前月比減少～やや減少。

[企業からのコメント]

- ・野菜は、年明け後は天候も良く、玉ねぎとねぎ以外は価格も落ち着き、入荷量やや増、価格やや安となった。果実は、昨年から品薄のふじ（りんご）は1月もかつてない高値が続き、特産の市田柿は不作もあり入荷減。いちごは生育の遅れもあり入荷減も、みかんは入荷量・価格とも好調。果実全体では入荷やや増、価格は前年並であった。
- ・売上面では、省エネ商材、再生可能エネルギー商材などの補助金対象商材が順調。その他、年初めの震災に伴い、防災に強い商材の引き合いがあり、力を入れていきたい。また、暖冬により季節商材は不調。仕入面では、幹線・電線・ケーブルの不足は徐々に解消されてきたかに見えたが、震災に伴う復興（仮設住宅・公共インフラ）が始まっており、多くの資材がそちらに流れている状況。現在は低圧ケーブルの深刻な不足が予想されている。
- ・トヨタ・ダイハツ関連の影響は大きく、今後の動きを注視していきたい。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 飲食業の売上は前年比ではやや増加～増加。宿泊業では業者により増減分かれる。

景況感は、飲食業では好転との声が多く、宿泊業では好転・悪化の声が拮抗

☑売上 … 飲食業は前月比では業者により増減分かれ、前年比ではやや増加～増加。宿泊業では前月比、前年比とも業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・「コロナが収束したことで、昨年に比べ売上は倍増している。しかし人手不足の影響で、忙しい思いをしている割には売上は伸びていない」「新年会の需要が戻ってきた。予約がたくさん入り、ありがたい」「コロナ、インフルエンザの増加、そして物価高等で消費が増えるはずがない」「今年のゴールデンウィークあたりまでは回復傾向が読めるが、それ以降の夏場の動向が今後の試金石になるとみている」
- ・「昨年の売上がコロナの影響を受けてひどすぎたため、昨年比で売上が増加。ただ国の補助金がないため販売単価は下がっている」「特需が入り売上が増加。しかし単発のため、一時しのぎに過ぎない」「新年早々の大きな地震の影響かは分からないが、人の動きがいつもと違うように肌で感じた1月だった」「雪もそれほど降らず、スキー場の状況も心配される」
- ・「バイトスタッフが減る中、キャッシュレス決済の導入でなんとかしのいでいるが、先がみえない」「退職に伴う緊急補充ができない」「仲居が不足」「外国人で対応、花が咲き出す頃までは現状のまままで対応」
- ・物価高騰の影響が続いており、4月以降の宿泊価格の値上げを検討している。

リニア南アルプストンネル静岡工区を巡る状況 ～「静岡県問題」の理解のために～

当地域の各地で進められているリニア中央新幹線並びに関連事業。リニア開通への期待が寄せられるとともに注目されているのが静岡県内の動向。今回は静岡県のリニア新幹線を巡る問題を整理し、理解をいただくこととする。

紙幅の都合上、ここ最近の動向が中心となる。また遠隔地で直接の取材は難しく、限られた情報からのまとめにならざるを得ない。



静岡市 駿河湾と富士山

1. 静岡県内の問題点

リニア南アルプストンネル静岡工区の問題は①大井川の水資源、②南アルプスの環境（生物多様性への影響）、③発生土による環境への影響であると指摘されている（静岡県HP「静岡県が懸念すること」）。

①大井川の水資源問題は、ほぼ決着がついたといえる。当初JR東海は平成25年環境アセスメントにおいて、トンネル工事により大井川の水が最大2t/秒減少すると発表して問題化した。これについて、後にJR東海は全量戻しを表明。ただ、トンネル掘削は上り勾配で掘り進むため（下図参照）、湧水は山梨県境へ向けて流れる。山梨県境まで流れた水はポンプアップし、導水路トンネルで大井川へ戻すが、掘削中（トンネル貫通の前）は山梨県側に水が流失する期間が出来てしまう。

令和4年4月JR東海は、その間の大井川への水の補填を東京電力が田代ダムから発電のため山梨県に引水する水の一部を大井川に戻す案を提案。静岡県（知事）との応酬があったものの、JR案を進めることとなった。

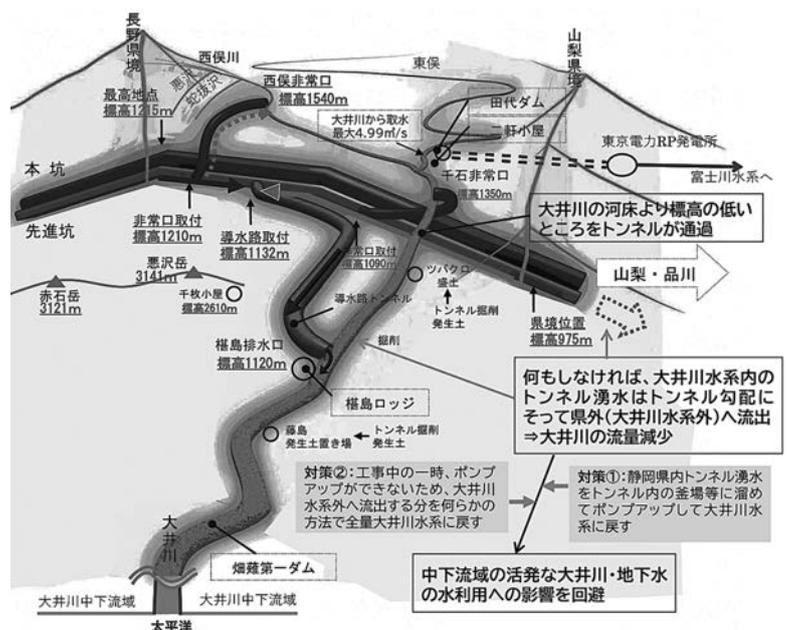
山梨県側から掘削中のトンネルは山梨・静岡県境に差し掛かり、県境付近の地質調査のためのボーリング（先進長尺ボーリング）を予定するも、静岡県は、県境付近の水が山梨県へ流れるとして実施を認めていない。

2. トンネル工事と南アルプスへの影響

②南アルプスの環境は、トンネル掘削による南アルプスの植生や生物の生息環境への影響を問題としたもので、具体的には、トンネル掘削の湧水発生により地下水位低下で沢の水が減少することや高山帯の土壌水分量が減少すると危惧されている。

国交省は令和2年4月から有識者会議を開催し検討してきた。令和3年12月に有識者会議は中間報告（内容は①大井川の水資源について）を発表。そして令和5年12月「リニア中央新幹線静岡工区に関する報告書～環境保全に関する検討～」（以下報告書）が発表された。

「トンネル工事の位置と大井川の関係」



凡例	
	本坑
	先進坑
	導水路トンネル
	大井川・支川
	自然疏下
	ポンプアップ

静岡市資料「国交省有識者会議報告の概要とそれについての静岡市の見解等」2頁
(静岡県作成、静岡市が加筆)

報告は多岐にわたっているが、まず流域の沢の流量変化は、断層とトンネルが交錯する箇所周辺の沢において流量が減少する傾向が確認されるが、その他の沢については流量変化の傾向は確認されず、トンネルと交差する箇所には薬液注入によりその他の沢の流量減少を低減する効果が期待されることが確認された、としている。

また高標高部の植生等への影響については、植生への主な供給経路は地下深部の地下水ではなく植生に影響は及ばないとしている。また、高標高部の池の水は深部の地下水とは直接的には繋がっておらず、トンネル掘削により地下水位が低下しても影響はないとする(同)。いずれも、事前のモニタリングと影響予測の・評価ヘフィードバックと必要な対策実施が基本、とまとめている。

令和5年4月静岡市長に元県副知事の難波喬司氏が当選した。新市長の下で静岡市は国有識者会議に対して地下水位低下のシミュレーションでの静岡市モデル(GETFLOWS)を提言するなど積極的に関わっている。「水が減った後では間に合わない」(市長ブリーフィング資料)として、「保全措置の変更・修正」のPDCAを繰り返すことが重要」(「国交省有識者会議報告の概要とそれについての静岡市の見解等」)としている。

3. 発生土・盛り土に対する懸念と対応

③発生土による環境への影響について、トンネル掘削で出る発生土の置き場は、主に「ツバクロ」「藤島」に設置される(前頁図参照)。このうち、ツバクロ発生土置き場について県は、周辺の大規模山体崩壊の発生やそれによる天然ダムの形成とその後の決壊による下流へのリスクがあり、ここに盛り土は認められないとしている。また、盛り土による河川の水質汚濁や盛り土に含まれる重金属の環境への拡散なども指摘されている。

令和5年12月静岡市が見解を示し、山体崩壊について、残土盛り土のあり・なしの条件でのリスクをそれぞれ検討し、必ずしも残土が被害を拡大するとはいえないとし、難波市長は、山体崩壊を懸念するのであれば河川管理者である静岡県が独自に山体崩壊のリスクを想定・評価して対策を進める責任があり、JR東海のみ責任とするものでないことも指摘している。

4. 静岡県内の変化

このように水資源問題や南アルプスの環境問題について、難波静岡市長は国有識者会議等に対し積極的に発言してきたが、現状をアルプス環境問題では「8合目」、ツバクロ残土置き場問題では「9合目」とかなり進んでいるとの認識を示している(本年1月13日朝日新聞デジタル)。

また2月26日行われたJR東海と大井川流域10市町との会合で、前述の調査ボーリングについて、「田代ダムは大規模改修により取水が来年11月までストップしている。全量大井川へ水が流れているこの間に調査ボーリングの実施を」という意見が出されているが、これに対し川勝知事は現状許可しない考えを示した(静岡朝日テレビニュース)。

静岡県内の力関係は僅かずつであるが変化してきており、事態は前進に向けてそろそろ動き出しているように見える。

〈参照〉

国土交通省 HP リニア中央新幹線について

https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_tk9_000035.html

静岡県 HP リニア中央新幹線整備工事に伴う環境への影響に関する対応

<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/kankyo/1040554/1002001/index.html>

静岡市 HP

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/>



大井川支流西俣川の斜坑掘削ヤード予定地
(撮影：赤羽目壮人)

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)

すべては、地域の公共交通機関としてあり続けるために

～南信州広域タクシー有限会社 代表取締役社長 鈴木佳史 氏～

近時は燃費改善や輸送量減少などにより漸減傾向にあるが、運輸部門の温室効果ガス排出量は、日本の排出量の約17.7%を占める（2020年度）とされ、環境への取り組みに対する期待は大きい。

こうした中、「(公財)交通エコロジー・モビリティ財団」は、環境負荷の少ない事業運営をする事業者を認証する「グリーン経営認証」や、エコドライブに関して優れた取り組みを表彰する「エコドライブ活動コンクール」といった事業を行って、交通事業者の環境への取り組みを支援している。飯田下伊那地域

でも、信南交通(株)、平沢運輸(株)飯田営業所、(株)ロジパルエクスプレス飯田物流センター、阿南自動車(株)飯田支店などの事業所がグリーン経営認証を受けている。

今回ご紹介する南信州広域タクシー有限会社アップルキャブは、平成20年から継続してグリーン経営認証を受けているほか、平成21年度からエコドライブ活動コンクールに参加し、優秀賞2回、令和4年度に優秀活動認定を受けた。そして、令和5年度には、事業部門で最高賞に当たる「国土交通大臣賞」を受賞し、応募した全国1308事業所の頂点に立った。

今回は、同社の鈴木佳史代表取締役社長に、アップルキャブの環境への取り組みや、それを支える同社の思いとあり方を、縦横に語って頂いた。



当社はタクシー会社6社が集まってできた会社。これが、すべての土台なのです。

●令和5年度エコドライブ活動コンクール国土交通大臣賞受賞おめでとうございます。

ありがとうございます。受賞に至る経緯ということですが、それにはまず、当社の成り立ちをお話したいと思います。

平成15年のことになりますが、当社は、鼎タクシー(有)、(有)飯田丸寿タクシー、(株)共同タクシー、松尾タクシー(株)、(有)上郷タクシー、天竜峡タクシーの6社が、同額の出資で新しく設立した南信州広域タクシー有限会社アップルキャブに、営業認可を始めとする営業権を無償譲渡する形で誕生しました。我々

はこれを6社の合併と言い慣わしますが、その上で、アップルキャブが調達した資金で各社から車両を購入し、設備を整え、運転手を改めて雇用したのです。

当時を知らない皆さんは驚かれるかもしれませんが、飯田下伊那には、最も多いときで25のタクシー会社がありました。飯田市内、丘の上と言われる市街地には通りごとにタクシー会社がありましたし、周辺地域で伊賀良や山本、八幡といった地区ごとに1社、各町村にも1社という具合に多くの事業者が点在していたのです。

それが、バブルがはじけたあたりから様々な面で厳しい部分が出てきました。24時間365日サービスを提供し続けるには各社の規模が小さいことのデメリット

が目立つようになってきたのです。それで皆さん共同配車などの工夫を始めたのですが、当社の場合は6社が合併することになったのです。

とはいえ、これは大変なことでした。地域もまだまだ元気でしたから、合併などしなくとも、社長一家、役員も現場で働き、運転手を手当てすれば、家業として各社十分成り立ったからです。

こういう中では、社長にはそれぞれ一言ありますし、経営状況も違えば、無線も電話番号も違う。何より営業区域のお客様に支えられているのですから、各社御最良のお客様がいます。合流当初を思い出しますが、例えば県タクシーのお客様を上郷タクシーの運転手がお迎えに上がると「見ない顔だね、俺を知らないのかい」とか、「私のところは松尾タクシーの運転手さんをお願いします」と言われることなど、日に何件、何十件とありましたよ。



- ・所在地：飯田市上殿岡717番地4
- ・代表者：代表取締役社長 鈴木佳史氏
- ・従業員数：76名
- ・車両総数：72両
- ・事業内容：一般乗用旅客自動車運送事業、一般乗合旅客自動車運送事業等
- ・会社沿革：
平成12年、地元のタクシー会社である、県タクシー(有)(昭和29年設立)、(有)飯田丸寿タクシー(昭和33年設立)、(株)共同タクシー(昭和38年)、松尾タクシー(株)(昭和41年設立)、(有)上郷タクシー(昭和45年)が協力して、MKグループとして業務提携を結び、サービスの共通化を開始。平成15年、業務統合の協議会を立ち上げ、同年9月に新会社として南信州広域タクシー有限公司(商号：アップルキャブ)設立。平成18年交通エコロジーモビリティ財団グリーン経営認証。平成25年本社事務所、車庫に43kWの太陽光発電を設置。令和3年長野県SDGs推進企業、南信州広域連合いいむす21認証。電気自動車の導入と、地元企業と協力したゼロカーボン電気の購入で、発電時、給電時、運行時すべてにおいてゼロエミッションタクシーの運行を実現する取り組みなどにより、令和5年度交通エコロジーモビリティ財団エコドライブ活動コンクールで最優秀となる国土交通大臣賞受賞。

それでも合併に踏み切ったのは、個社の都合でサービスを中止してはお客様に申し訳ないという信念、加えて、介護、代行だとか、寝台等の特殊車両といった、従来のタクシー業に止まらないサービスをお客様に提供し続けなければならないという、公共交通機関としての使命感が各社長にあって、互いに信頼しあうことができたからです。個社のままでは、現実にはそれが難しい部分がありました。それで合併という選択をしたのです。

お客様はありがたいもので、アップルキャブを受け入れていただければ、依然古くからお客様が生活のために必要としてくださいましたし、規模が大きくなってお客様の利便性が高まりました。また、合併に当たって、アップルキャブには個社の資産も負債も、何も持ち込まないという約束で、出資も各社同額ですから、しがらみがありません。

こうして、個社の状況にかかわらず、アップルキャブが地域の公共交通を担う企業として、しなければならないことができる土台が出来上がったのです。

環境文化都市・飯田市にある公共交通事業者だからこそ始めた、エコドライブ活動

平成9年に「飯田市環境基本条例」を施行し環境に配慮した自治体運営をしていた飯田市は、当社が合併して間を置かず、平成19年に「環境文化都市宣言」を行いました。当社も、今は名称が変わりましたが、環境省の下飯田市に設置された、地球温暖化防止推進協議会に、運輸事業者として参加するようになりました。

飯田下伊那で24時間365日、化石燃料を使ってCO₂を排出しながら、公の道路を使わせていただいている当社が、地域のためにできることは、しなければならないと考えるようになったのは、これがきっかけです。それで、冒頭ご紹介いただいたグリーン経営認証制度や、エコドライブ活動コンクールに参加しはじめました。

「ふんわりアクセル」とか、「車間距離はゆとりをもっ

て、加速・減速の少ない運転」といったエコドライブの内容自体は、あるいはみなさんご存じかもしれませんが、公共交通を担う事業者は、事業全体としてCO₂を削減するためにもっと幅広い活動を行います。

ドライバーは、運転操作だけでなく、燃費効率のよいルートを選択も心がけますし、ドライバーを支える整備士、配車員も、整備や、実車率を向上させる取り組みなどを通して、日々燃費改善に努めます。事務員もスリーRの実践や請求書からの燃費管理を徹底するし、経営も燃費の良い車両の導入に努めるといった具合です。

エコドライブ経営で最も大事なことは、エコドライブ活動の実践を浸透させることです。エコドライブ活動の理念に反対する従業員はいません。しかし業務の中では、ドライバーはせかされて急ぐこともあるし、時間短縮のために上り下りの多い道を選ぶこともあります。それでもCO₂排出を抑えてもらうには、時間の余裕の取り方、ルート選択、ちょっとした運転操作でも、自然とエコドライブを選択するようになってもらう必要があるのです。自分のこととして考え、やらされ感のない、当たり前な運転行動になってもらわなければならないのです。

それには、トップが「エコドライブ、やるぞ」と決めて、その決意を折に触れて社員に伝える実践が重要だと思います。公共交通事業者には点呼がありますが、当社では、始業点呼でドライバー自ら「私は今日1日、安全運転行動はこういう具合に行動します、運転行動はこういう運転をします」と宣言してもらい、終業点呼で「ちょっとできなかったな、明日はどうしよう」とか、「ちゃんとできました、明日もよろしくお願います」という具合に、自ら宣言を確認してもらうこ



とにしています。

当社のエコドライブ活動は点呼だけではありませんが、成果は出ています。燃費の改善率は従業員の目にもはっきり分かりますし、燃料費も削減できます。加えてエコドライブは事故防止につながります。プロドライバー事故防止コンクールというのがありますが、当社のドライバーチームが3年連続で特別賞を受賞したこともありました。こうした目に見える成果は、従業員の士気を高めてくれます。

飯田下伊那で、ゼロエミッションタクシーを走らせたい！

飯田下伊那が本拠の当社だからこそ、もう一つやりたいことがありました。それは、この地域にゼロエミッションタクシーを走らせたいという夢です。この頃は都市の大手さんを中心に聞くようになりましたが、当社は平成23年に初代日産リーフを2台導入し、まず「走る」場面でのゼロエミッションに挑戦しました。北陸信越運輸局管内で初めてでした。

次いで平成25年に、おひさま進歩エネルギー(株)と協力して本社事務所と車庫に太陽光発電施設を設置し、電気を「作る」場面のゼロエミッションも始めました。

おひさま進歩エネルギーは、前身を含めると平成16年から活動していて、日照率のよい飯田市で、市民の出資を募って太陽光発電装置を設置し、売電収入を出資者に還元する活動などを行っています。エネルギーの地産地消を実践する会社です。当社が、発電した電力をすべておひさま進歩エネルギーから買い上げてリーフの給電や事務所電力に使用し、余剰があれば売電する仕組みです。

しかし、こうした試みも、当社のゼロエミッションを達成したいという夢には届きませんでした。原因の一つには、初代リーフの航続距離が短く、しかも給電インフラが未整備なために、タクシーとして利用するには難しかったということがあります。また、夜間や雨天時は電力会社から電気を買うのですが、それだと

火力でできた電気も入り込みますから、ゼロエミッションにはならないということがありました。

しかし、追い風が吹き始めました。まず、新型リーフが発売されて航続距離が伸びました。そして令和4年、夜間や雨天時の使用電力を賄うために、飯田まちづくり電力(株)と協力して非化石証書を購入し、電気を「買う」場面でもゼロエミッションを達成することができました。



当社はこれに合わせて新型リーフを導入し、令和5年、とうとう飯田市乗合4路線でゼロエミッションタクシーの運行を実現することができたのです。

当社は、令和5年度エコドライブ活動コンクールで国土交通大臣賞を受賞しましたが、地方の小さな会社が、SDGsが言われる前から、ゼロエミッションタクシーを走らせるための努力、一生懸命エコドライブ活動を積み重ねてきたことが評価されたと思います。

振り返ると、もし当社が飯田市の会社でなかったら、ここまで熱心に取り組むことはなかったかもしれません。

公共交通機関の先導役として、社会的責任を果たしていきたい

私たちは、地域に根差した公共交通機関として、移動を提供するだけでなく、何か他に貢献ができないか、常に考えていきたいと思っています。公共交通機関は自由に運賃を決められるわけではありませんから、

理念に共感できても実践は難しいところがあります。それでも当社の取り組みを発信し、公共交通機関の分野の先導役になればと思っています。

先頃能登半島地震がありました。当社は、本社事務所にV2H機器を導入したことで、当社の太陽光発電設備から供給される電力をEV車やPHV車に充電し、災害時の非常用電源として使用できるようになりました。

また、災害に強いと言われるIP無線機を導入しましたので、緊急時に当社の車両が基地局となって行政等との連絡が可能になります。阿智村とは「災害時における電力の供給に関する協定」を締結し、災害時に、これらの機能を持つ弊社のEV車両を提供することにしました。こうした取り組みも、公共交通機関として、安全の上に安心をお届けする会社でありたいからです。

運転手の高齢化や人員不足に加え、2024年には自動車運転業務の時間外労働時間が制限されますし、ライドシェアの落ち着く先もまだ見えません。当社を取り巻く環境に大きな変化がありますが、もし24時間365日お客様に移動のサービスを提供する私たちが事業を止めてしまったら、お年寄りの生活の足、夜の飲食店、多くの分野に悪い影響を与えてしまいます。タクシー業は、公共交通機関として継続されることが重要なのです。対応を工夫する余地はまだあるのでしょうか。

リニアの開通は、過去に経験のないインパクトがあるのではないかと思います。当社の車両デザインは、リニア中央新幹線をイメージしたリニアラインと、長野県のPRキャラクター「アルクマ」の水引バージョンですが、それは、2次交通にタクシーを利用する皆さんに、「リニアが通るこの町は、タクシーでさえ電気自動車を使っている。そういう町なんだ」としてもらいたいからなのです。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達)

D X時代の広域連携 スマートリージョンをめざして ～ [編著] 大西隆・戸田敏行＋スマートリージョン研究会 ～

「スマートリージョン」という言葉をお聞きになったことがあるだろうか。

簡単に言えば、地域社会は、人口減少・少子高齢化・地球温暖化などの環境変化・自然災害への適応・緩和といった様々な課題を抱えているが、これを、情報通信技術（ICT）を用い、従来の圏域を超えた産・学・官・金・民が連携して解決策を講じていこうというものである。

その先には、その地域に住む人、活動する人、訪れる人の、「暮らしやすい地域」としての満足度を高めるため、「ウェルビーイング（＝人にやさしい地域）」の視点から、持続可能な都市、地域を造りたいという願いがある。

本書は、「新東海地域」を例に、スマートリージョンの考え方や取り組みを紹介するとともに、ビジョンを提言するものである。

「新東海地域」。聞きなれない向きも多いかもしれないが、三遠南信地域を構成する、浜松市、豊橋市、飯田市を中心とする遠州、東三河、南信州の各地域と、静岡市を中心とした静岡県中部地域を合わせた地域である。

ここには政令指定都市から中山間地域まで、多様な生活空間があり、正に日本の縮図というべき課題が集積している。これをICTと従来の圏域を超えた産・学・官・金・民の連携で乗り越える方策を考えていこうというのが本書の狙いで、当研究所もオブザーバーとして研究会に参加している。



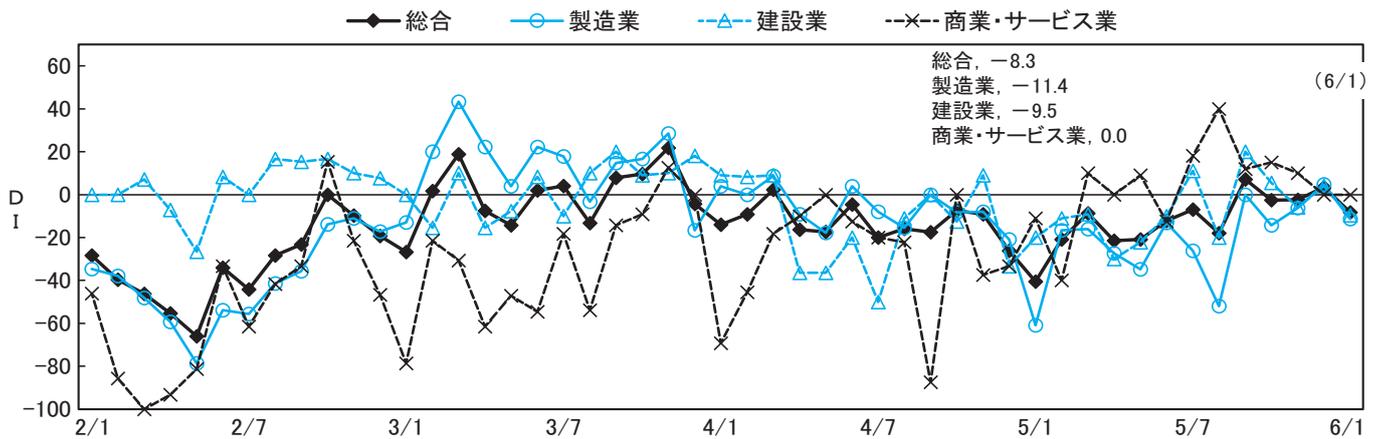
紙幅の都合上本書の内容をご紹介することはできないので、本書に寄せられたコメントをいくつかご紹介したい。

- 「新東海地域」という構想はあまり聞きなれないが、東海道沿いには、20万人くらいの人口を擁する都市が連坦している。これらの都市には特色ある経済圏があるが、これらが連携することには可能性があるのではないか。
- それぞれの都市にはそれぞれの住み易さがあると思うが、これをウェルビーイングの観点でICTを使って繋げるという試みはなかったように思う。
- 本書で、自治会DXのお話（第3章「デジタル化する自治会と新たな地域社会像」。SNSやアプリで、様々な自治会活動をDX化する試み）が出てくる。自治会の組織率が低下し自治会活動が低迷する自治体にとって一つの方策だろう。これに限らず、アプリなどの成果を広域で共有して行く方向性は、ICT人材が不足、偏在する中で、効率的な社会実装に有益ではないか。
- 災害への備え、対応としても、ICTを用いた広域的な都市間の助け合いは、今後ますます注目されるのではないか。
- 現在、地域ごとに医療資源を確保することが難しくなっている。自治体によっては複数の診療機関や介護関係事業者が、診療、介護に必要な情報を電子的に共有する仕組みがあるが、これがもっと広域的になれば、遠隔、専門医療の提供などの面で、住民のウェルビーイングに資するのではないか。
- 観光の面でもDXに期待できるのではないか。特に外国人は、インターネットを用いて情報を得ている。広域的な連携の上で、各都市の特徴ある「コト」を発信していくことは重要かもしれない。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上)	県内	8件	(前月 5件)	(前年同月 6件)	(前々年同月 5件)	(令和元年同月 11件)
	飯伊	0件	(前月 1件)	(前年同月 0件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 1件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (12月)		57戸	△ 3.4 %	1.8 %	5.6 %	△ 13.6 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (12月)		1.55倍	(前月 1.52倍)	(前年同月 1.70倍)	(前々年同月 1.54倍)	(令和元年同月 1.49倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,756台	△ 9.3 %	△ 5.2 %	△ 0.5 %	△ 7.0 %
	中古車	564台	△ 21.4 %	31.8 %	7.6 %	23.4 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (12月)	新車	3,471台	△ 17.4 %	△ 3.6 %	4.7 %	3.3 %
	中古車	895台	△ 2.4 %	11.9 %	△ 2.4 %	2.2 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	87,325台	△ 7.5 %	3.6 %	12.0 %	△ 16.7 %
	出	87,143台	△ 10.4 %	3.2 %	11.1 %	△ 16.8 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	49,727台	△ 12.7 %	△ 1.4 %	6.6 %	△ 28.3 %
	出	45,529台	△ 19.3 %	△ 0.8 %	7.8 %	△ 28.7 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	10,885台	3.1 %	△ 7.7 %	△ 4.5 %	△ 12.2 %
	出	10,458台	3.1 %	△ 12.1 %	△ 6.7 %	△ 17.4 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	37,411台	△ 9.9 %	7.8 %	13.0 %	9.4 %
	出	36,324台	△ 14.1 %	8.7 %	15.0 %	10.8 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	35,969台	△ 6.7 %	8.5 %	- %	- %
	出	34,533台	△ 8.0 %	6.5 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		132件	△ 7.0 %	9.1 %	67.1 %	4.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		5件	(前月 2件)	(前年同月 2件)	(前々年同月 9件)	(令和元年同月 8件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	21,421人	△ 6.3 %	15.9 %	94.0 %	△ 19.9 %
	飯田～名古屋	13,446人	△ 3.4 %	15.4 %	72.3 %	△ 24.7 %
	飯田～長野	3,480人	△ 4.5 %	0.0 %	21.8 %	△ 58.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	16,701人	△ 4.3 %	32.8 %	121.4 %	△ 20.6 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,441人	△ 20.6 %	5.7 %	24.0 %	△ 19.0 %
	右回り	2,466人	△ 16.9 %	5.3 %	19.9 %	△ 14.2 %



新入社員研修会のお知らせ

恒例の新入社員研修会を開催します

専門講師が、身だしなみ、敬語の使い方、電話応対、来客対応など、新入社員の皆さまに必要なスキルを分かりやすく講義します。社会への好スタートを切り、一日でも早く活躍できますよう、ご活用ください。

日 時：令和6年4月17日(水)
10:00～17:00

講 師：山本 富士美 氏
オフィス・F 代表／一般社団法人 日本講師協会会員

会 場：シルクホテル

費 用：IBC会員 3,000円(税込)
しんきんAssist倶楽部会員 4,000円(税込)
一般企業(上記以外) 5,000円(税込)

※いずれもお一人様あたりの金額となります。昼食のご用意いたします。研修会開催後、申込企業さまへ請求書を送付いたしますので、ご確認頂きお振込みください。

定 員：先着70名

申込期限：令和6年4月3日(水)

申込方法：下記コード、または飯田信用金庫ホームページから申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力してお申し込みください。折り返し「受付完了しました」のメールが届きましたらお申込み完了となります。

専用申込フォーム



または

 飯田しんきんのイベント情報

 検索

お問い合わせ

飯田信用金庫 営業統括部
TEL 0265-22-1700 FAX 0265-22-4320
E-Mail gyomu@iidashinkin.co.jp